

2 鉄道開通まで

昭和十六年、数十年間にわたっての念願であった四国循環鉄道卯之町―宇和島間が完成し、部分運転が開始せられ、更に昭和二十年には八幡浜―卯之町間が開通して、八幡浜―卯之町―宇和島間が全通したのである。ここに今、鉄道建設に至るまでの経過をふり返ってみると

明治二年十一月伊藤博文、大隈重信らの努力によって鉄道建設の方針が決定し、明治五年新橋駅において天皇の行幸を仰ぎ鉄道開業式が挙行された。その後二十六年には鉄道神戸工場で機関車が作られ、四十四年には大量生産されることとなって鉄道は目ざましい発展をみた。それと同時に、全国的に鉄道熱が旺盛となり、宇和町にあつても鉄道布設運動が始まったのであるが、それは明治四十四年からであった。

之に先立って町有志数名により、株式会社を設立民営事業として鉄道布設が計画されたのであつたが、遂に中止となつた一幕もあり、早くから鉄道布設については腐心されていたようである。

大正八年時の政党三派から、夫々の計画に基づく四国循環鉄道敷設建議案が衆議院に提出せられ、本格的な運動が起つたのであるが、二月二十五日の衆議院特別委員会においては、松山市より大洲を経て宇和島に至る線の百四号線が可決された。その為八幡浜及び宇和町民は悲憤慨歎し結束を固め、即日反対運動に乗出すと共に、現在の百三号線敷設同盟会が設立されたのである。

翌大正九年九月鉄道院は技師を派遣し、大洲坂石間及び坂石―野村―卯之町間の实地測量に着手した。更に十二月新たに鉄道敷設法が制定せられ新鉄道線路網の選定をみ、八幡浜卯之町間と宇和島を経て、中村に達する予定路線が挙げられ、そのために運動は一層活発となつた。翌十年八月、県下各郡における有志により四国循環鉄道速成同盟会が結成された。



卯之町駅（特急列車停車駅記念行事）

四国循環鉄道速成同盟会趣意書

交通機関ノ充実ハ国民ノ文化及経済発達ノ必要条件ニシテ其ノ最緊要ナルモノ鉄道ノ普及ニ如クハナシ、吾国曩ニ鉄道国有ノ制度ヲ樹テ線路ノ新設年ヲ逐フテ増加シ大正七年末調査ニ依レハ其ノ延長実ニ六〇七、二哩ニ達シ運輸交通ノ利便躍如トシテ面目ヲ一新シタリ、然リト雖退テ本県ノ状態ヲ顧ミレハ甚タ遺憾ニ堪ヘサルモノアリ、抑本県ノ地タル四国ノ西北ニ位置シ、瀬戸内海ニ面シ一衣帯水阪神諸港及中国九州ノ諸県ニ相對シ面積三六九方里、人口一十一万ヲ有シ土地肥沃ニシテ氣候順和海陸ノ生産年額三億余万円ノ多キヲ算ス人口稠密物資豊富開拓ノ余地綽々タル四国各県中其ノ比ヲ見ス、然ルニ国有鉄道ノ敷設セラル、モノ僅ニ二十九哩余ニ過キス、之ヲ県ノ総面積ニ比スル時百万里ニ對シ漸ク七哩余ニシテ、大正七年末調査ニ依ル全國平均三二哩ト對比スルトキハ其ノ及ハサルコト甚タ遠キニ驚カサルヲ得ス、故ヲ以テ他府県ニ比シ動モスレバ人文ノ発展遲シ、産業上ニ於テモ亦著シキ進歩ヲ見ル能ハス、殊ニ鉄道ノ普及セサルカ為郡市町村ヘ道路ノ改修橋梁ノ架設其他土木事業ノ為、年々巨額ノ経費ヲ要シ荷重ノ負担ヲナシツ、アルハ誠ニ県民ノ一大不幸トイハサルヘカラス、国有鉄道ノ敷設ハ實ニ同県ノ休戚ニ関スル重大問題ニシテ從來屢々県民ノ輿論ヲ喚起シ、或ハ陳情或ハ請願ニ或ハ建議ニ百万政府ノ注意ヲ促シ之ガ実現ニ努ムル所アリシト雖、其ノ敷設ノ遅々トシテ進捗セサルハ県民ノ齊シク遺憾トスル所ナリ、吾等茲ニ見ル所アリ県下有志ノ協力ニ俟チ四国循環鉄道速成同盟会ヲ組織シ内ニ偕和ノ実ヲ擧ケ、外高所大生シテ以テ該鉄道ノ速成ニ最善ノ努力ヲ尽サンコトヲ期ス、惟フニ四国鉄道ノ完成ハ之ニ依テ四国全土ノ交通ヲ統一シ海陸運輸ノ大聯絡ヲ實現シ、地方開發向上ヲ期スルト同時ニ國運ノ進展ニ寄与セントスル一大事業ニ外ナラス、希クハ如上ノ趣旨ヲ賛シ之ガ目的ノ達成ニ助力セラレンコトヲ。

大正十年八月

八月十九日午前九時から鉄道速成協議会が開催せられ、会則及び期成同盟会設立発企の件を協議、さらに鉄道省に対する陳情委員の選定が決定したのである。

そして大正十一年には、期成同盟会を開き委員が上京して各関係官庁政党に対し陳情運動を行なったが、百三号線の形勢は余り良好ではなかった。翌十二年東西両郡の有志による郡民大会が開催せられ猛運動が展開されたのである。その決議文として、

四十六議会に提出せんとする鉄道省予定の新線を百四号線となせるは、百三号線に比較して其緩急前後を誤れるものと思ふ、仍て本会は百三号線の貫徹に極力運動せんことを期す。

と氣勢をあげると同時に、貴衆両院をはじめ政府当局に対して請願書が提出された。

請 願 書

四国循環鉄道予定線百三号線中愛媛県八幡浜市より宇和町、宇和島市、高知宿毛町を経て、同県中村町に至る線路は四国西南沿岸の人口及び物資の最も豊富なる地方を通ずる線路にして、地方文物の啓発上最も必要なる線路に有之、第四十六議会の案に漏れたるは地方幾万民衆の深く遺憾とする所なり、故に特別の御詮議を以て速成の恩典に浴し度右請願候也

大正十五年古谷参枝官来卯せられ、更に昭和二年鉄道省建設局調査課新設路線主任技師横尾彦太郎氏の来卯となった。ついで八年前鉄道次官貴族院議員佐竹三吾氏が来卯されることによって、百三号線の実現に一步前進をみ、ついに昭和七年の議会に百三号線が提案されることになり、越えて八年三月二日本会議において確定された

のである。

工事は昭和八年開始せられ同十二年完成の予定であったが、またまた日支事変によって諸工事が遅れた為に、昭和十六年七月二日漸く卯之町―宇和島間の部分運転が開始された。工事は引続き行なわれ昭和二十年、八幡浜―卯之町―宇和島間の全通を見たのである。

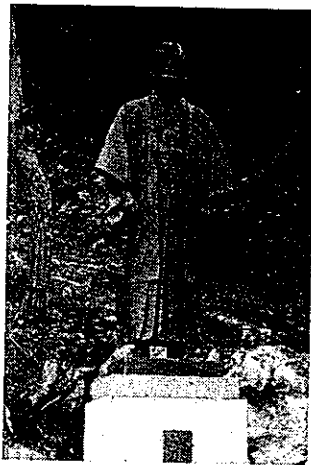
ここに四十年間にわたる鉄道敷設運動は終った。その陰には幾多先輩諸士のたゆみない戦いがあったことを、今更のように

痛感するところであって頭の下る思いである。わけても本多真喜雄の功績は実に大きく、この偉業は後世まで永くたたえられることであらう。

3 町村合併後

宇和六ヶ町村の合併によって新たに宇和町が誕生し、全域にわたって道路の整備がはかられ、それに伴う排水路の整備、橋梁の架設が行なわれることとなって、年を追って工事も実施されていった。

三十三年三月町道上宇和小原線の新設工事の完成をはじめ、卯之町駅前通り舗装が完了、次いで三十六年三月商店街の道路舗装となり、同年下松葉から江良に至る延長二千五百呎、幅員十二呎の国道が完成した。その後、三十九年に至り集中的に工事が進められ瀬戸岡山間の道路幅員拡張工事をはじめとして、明間岡山線同中組線、河内中央線、伊延沢津線、皆田下組岡下線、稲生向沖線等の各路線の幅員拡張工事が行なわれたため諸車の通行は容易となった。それと共に道路の新設工事も進められ、地区及び部落間の通行も又容易となったのである。



本多真喜雄の銅像
経ノ森公園内